



地震被害を少なくする 事前の備えは?

■「備え」が地震被害を少なくする

過去の震災の記録からどんな備えをしたらよいかピックアップしました。

●水の備蓄

- ・マンションの受水槽内に貯まっていた水が蛇口から出ているからといって決して油断しないこと。タンクが空になれば水が出なくなります。2~3日分の水を備蓄しておくこと。
- ・ペットボトルの水を数本備蓄していること。水道管破壊により水道の復旧が遅いからです。災害時は3日分の水は自分で用意すること。行政が動いて水が到着したのは3日目ぐらいからです。

●情報収集

- ・電気が止まります。テレビもインターネットも電話も使えません。そのときに頼りになるのは携帯ラジオ(電池も用意)。情報源としてラジオは必需品です。

- ・事前に避難場所、安全な所を実際に見て確認しておくこと。
- ・居住近辺の商店マップを手に、東西南北約3キロメートル四方位まで、何がどこにあるのか(自動販売機等を含む)を把握しておくこと。
- ・交通手段のバス、電車がストップした時を想定して、一駅向こうの駅や停留所まで、実際に歩いてみることを。
- 安全確認
 - ・逃げる時には、家の配電ブレーカーを切ることを。火災防止のために。



(有)村上保険サービス通信

〒027-0025 岩手県宮古市実田 1 丁目 3 - 3
TEL 0193-65-1020 FAX 0193-64-5805

24年
6月号

あなたも **30秒** で情報通! 活用法 いろいろ **コミュニケーションパー**



地震予兆を解析する レポート内容は?

■能登半島地震の前兆

石川県の能登半島大地震の前兆とされるかもしれないといわれている地震が2022年4月に22回も発生していました。「これほど立て続けに地震が起きるのはこれまで経験したことがない」と地元住民は言っており過去にも「能登半島地震」が発生しており住民たちは再び大地震が起きる可能性を警戒していました。

東日本大震災が発生した3月11日以前から右表のように三陸沖の地震が続いていました。地震予兆の一つとして地震発生前に通常とは異なる地殻変動や群発地震の増加が観測されることがありそうです。

■地震予兆解析レポート

地震予兆解析レポートというのがあるので
しょうか?

ネットで調べたところありました。

「一般社団法人 地震予兆研究センター」が賛助会員向けに配信しているものです。

■地震予兆解析レポートの内容

大地震発生前には、通常とは異なる地殻変動や群発地震の増加などの前兆現象が観測されるそうです。地震予兆解析レポートは、最新の地殻変動値や地震活動を表示し、観測データと地震の相関性を理解するとともに、過去の類似する観測データと地震情報から統計学的に導かれた、発生の可能性が高まっている地震情報を提供するそうです。

発生日時	震央地名	マグニチュード	最大震度
11日15時06分頃	三陸沖	M7.0	震度5弱
11日14時46分頃	三陸沖	M7.9	震度7
11日07時44分頃	三陸沖	M4.8	震度1
11日06時50分頃	三陸沖	M4.5	震度1
11日06時41分頃	茨城県南部	M3.4	震度1
11日03時14分頃	宮城県北部	M3.5	震度3
11日01時55分頃	三陸沖	M5.3	震度2
10日20時30分頃	三陸沖	M4.5	震度1
10日20時21分頃	三陸沖	M5.1	震度2
10日18時02分頃	三陸沖	M5.2	震度1
10日17時59分頃	三陸沖	M4.7	震度1
10日17時08分頃	三陸沖	M5.7	震度2
10日10時20分頃	三陸沖	M4.7	震度1
10日08時58分頃	三陸沖	M4.8	震度1
10日08時37分頃	三陸沖	M5.1	震度2
10日06時24分頃	三陸沖	M6.6	震度4
10日06時01分頃	三陸沖	M4.8	震度1
10日03時45分頃	三陸沖	M6.1	震度3
10日03時16分頃	三陸沖	M6.2	震度3
10日01時59分頃	三陸沖	M4.7	震度1



なぜ落雷は危ないのか？

■落雷の危険性

高電圧: 落雷は数百万ボルトにも達する高電圧を持ち、これが直接人や物に当たると、大きなダメージを与える可能性があります。

高温: 落雷の温度は約30,000°Cにも達し、これは太陽の表面温度よりも高いです。この高温により火災が発生したり、物体が蒸発したりすることもあります。

電磁パルス: 落雷によって発生する電磁パルスは、電子機器に障害を引き起こすことがあります。

音の衝撃: 雷鳴は非常に大きな音を発し、これが物理的なダメージや心理的な恐怖を引き起こすことがあります。

予測不可能: 雷は予測が難しく、突然発生するため、適切な対策を取ることが困難です。

これらの理由から、落雷は自然災害の中でも特に恐ろしい現象とされています。

■日本の落雷死亡率

1994年から2003年の間に落雷の被害を受けた方は約100人で、そのうち亡くなった方（行方不明含む）が約30人以上でした。これは死亡率がおよそ30%ということを示しています。

日本では年間平均約20人が落雷による直接被害に遭いそのうち約30%が死亡しています。

■世界の落雷死亡率

地球上では毎秒約100回、毎日約860万回もの落雷が起こっており、世界では年間約1000人が落雷による直接被害に遭い、被害者の約30%が死亡しています。

落雷による死亡事故は、直撃雷や側撃雷など、雷の種類によって死亡率が異なります。直撃雷の場合、死亡率は70~80%とも言われており、雷撃を受けたほとんどの方が即死となります。

側撃雷も高い死亡率を持っています。落雷は予測が難しい自然現象ですが適切な対策を取ることでリスクを減らすことができます。



落雷事故を避けるためには

屋外での安全対策:

- ・ 広々とした野原や丘の頂上を避け、谷や溪谷などの低地に移動する。
- ・ 雨が降っている日は水泳やウォータースポーツを避ける。
- ・ 木や孤立した高い物の下に立たない。
- ・ 金属製の柵や配管など、電気を通しやすい物を避ける。

屋内での安全対策

- ・ 避雷針を屋根に設置する。
- ・ 嵐が去るまで入浴やシャワーの利用を避ける。
- ・ 有線の電気製品の電源を切り、距離を置く。
- ・ 窓を閉め、開いた窓や扉の近くに立たない。

車内での安全対策

- ・ 運転中に雷雨に見舞われた場合は、車内に留まり、窓を閉める。
- ・ 金属製の部分に触れないようにし、ラジオやGPS機器の使用を避ける。

鉄筋コンクリート建築物に避難

- ・ 避難したら壁・柱・天井などから1メートルぐらい離れます。雷が落ちやすいアンテナなどにつながっているテレビや電気機器・有線の電話などからも離れます。雷の電流が水道管・ガス管を伝うことがあるから洗面所、浴室、キッチンからも離れます。

洞窟、トンネルに避難

- ・ 洞窟、トンネル、地下は安全です。ただし、雷に雨はつきものなので、浸水には十分な注意しましょう。

